

地球市民フォーラム「世界のがっこう」開催

グローバル化が進み、世の中が急速に変わっていきます。そんな中で、共に豊かに生きていくために、どんな「学び」が必要でしょうか？12月～1月に行なわれたプレセミナーに続き、今度は展示なども交えてじっくり「学び」を考えます。2月4日(土)は、アフガニスタンに長年関わっておられる写真家の長倉洋海さんをお招きして「国際教育協力」について考える講演会と映画を、また、2月5日(日)は、神奈川県内で「多文化共生」「国際理解」にかかわる学びの現場から、6名の方をお呼びして、セミナーとパネルトークを行います。どうぞご参加ください!

- ①2006年2月4日(土) ~国際教育協力の現場から~ 11:00~12:30 映画「カブール・トライアングル」 14:00~16:00 長倉洋海さん(写真家)講演会 「アフガニスタンの小さな笑顔～山の学校支援の現場から～」
- ②2006年2月5日(日) ~多文化共生・国際理解の視点から~ セミナー・パネルトーク※詳しくは右図を参照 11:00~12:30、13:30~15:00は、A・B・C3種類の講座が、3つ別々の場所で同時進行します。同じ時間帯に開催される3つのうち1つを選んでご参加ください。A・B・Cの組み合わせは自由です。

会場:あーすぷらざ 各会場にて  
 定員:①120名 ②セミナー各40名、パネルトーク120名  
 申込み:①申込不要 ②お名前・ご連絡先(電話・FAX・E-mail)、ご希望の講座、参加動機を下記問合せ先までご連絡ください。  
 詳細:http://www.k-i-a.or.jp/  
 問合せ:国際協力課(担当:成田)  
 TEL:045-896-2964 FAX:045-896-2945 ※祝日除く月曜休み  
 E-mail: minsai@k-i-a.or.jp

★写真などの展示もやります!ぜひどうぞ!  
 ①長倉洋海さん写真展「アフガニスタンの山の学校から」ほか  
 ②朝鮮学校の日常 写真展  
 ③OXFAM JAPAN「世界の子どもに教育を」キャンペーン パネル  
 日時:2006年1月28日(土)~2月5日(日) 10:00~17:00 ※祝日除く月曜休み  
 会場:あーすぷらざ3階・企画展示室

	セミナーA 共通テーマ 日本の中の、「外国」の学校	セミナーB 共通テーマ 異文化を、どう理解する?	セミナーC 共通テーマ ひとりひとりの子どもと向き合う
1時間目 11:00~12:30	セミナーA1 講師:潘民生さん (横浜山中華学校校長)	セミナーB1 講師:ジギャン・クマル・タバさん (横浜国立大学大学院生、ネパール出身)	セミナーC1 講師:梅田玲子さん (横浜市立蒲田中学校教員、国際教室担当)
12:30~13:30	給食 講師の皆さんが関わっている「学びの場」で、子どもたちが食べているものと近い昼食を販売予定。 ※実費(500~600円)程度をご負担ください。		
2時間目 13:30~15:00	セミナーA2 講師:張末麗さん (神奈川県立中高級学校英語科教員)	セミナーB2 講師:天野和広さん (開発教育を考える会、青年海外協力隊コーディネーター、もと在タイ日本人学校教員)	セミナーC2 講師:ワスニモニカ孝子さん、猿橋順子さん (不登校の子のためのスペース「ハートフルン」たまごの輪代表)
3時間目 15:15~17:00	パネルトーク「ともに豊かに生きるための学びって?」 山西優二さん(早稲田大学教授)を司会に、6つのセミナーの講師が集まり、「ともに豊かに生きるための学び」をテーマに、参加者を交えて語り合います。		

あーすぷらざに、ほんものの「ゲル」がやってくる! モンゴルの暮らしと文化展

遊牧民の移動式住居「ゲル」や生活用品、約100点の写真で見る、草原の暮らし、都市の暮らし。映画、馬頭琴のコンサート、民族衣装の試着、ワークショップ、クイズなど、子どもから大人まで楽しめる企画がいっぱいです。特に2月25日(土)26日(日)の2日間は、「モンゴル・デイ」と題して、たくさんプログラムが行われます。ぜひ、おいでください。

日時:2006年2月16日(木)~3月14日(火) 9:00~17:00  
 会場:あーすぷらざ3階・企画展示室他(入場無料)  
 監修:小長谷有紀(国立民族学博物館教授)  
 協力:国立民族学博物館  
 問合せ:地球市民学習課(担当:木下(理)、菅沼)  
 TEL:045-896-2895  
 ※祝日除く月曜休み

- 【モンゴル・デイのプログラム】
  - ギャラリー・トーク「遊牧という現代文明」  
小長谷有紀先生(国立民族学博物館教授)  
2月25日(土) 14:00~15:30 展示会場にて
  - モンゴルの民話を読もう  
「かながわ子ども広場」の皆さん他  
2月25日(土) 14:00~15:00  
ワークショップ・ルーム(1階)にて
  - 映画「らくだの涙」上映会  
2月25日(土) 11:00~12:30  
2月26日(日) 11:00~12:30、13:00~14:30  
映像ホール(5階)にて
  - コンサート「草原に吹く風」  
馬頭琴:セーンジャーさん他  
2月26日(日) 15:00~16:30 プラザホール(2階)にて
  - 【ワークショップ】
  - 「ゲルを分解してみよう」  
3月4日(土) 15:00~17:00  
展示会場にて  
小学5年生以上、  
定員20名(事前申込み制)
  - 「ゲルを組み立ててみよう」  
3月5日(日) 10:00~12:00  
展示会場にて  
小学5年生以上、  
定員20名(事前申込み制)
- 問合せ・申込み:  
 地球市民学習課(担当:木下(理)、菅沼)  
 TEL:045-896-2898  
 ※祝日除く月曜休み

有料施設のご案内 [プラザホール]



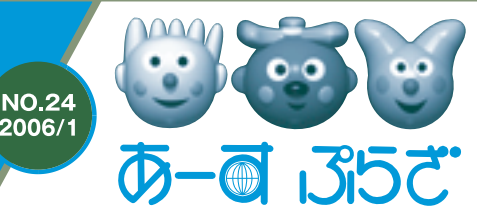
講演会をはじめ、映画会、学芸会、音楽会、研修会などにご利用いただける可動床の多目的ホールです。(226~358席)

区分		平日		土・日・休日	
		AM9~PM5	PM5~PM10	AM9~PM5	PM5~PM10
プラザホール	入場料あり	4,500円	5,200円	5,650円	6,500円
	入場料なし	3,000円	3,450円	3,750円	4,300円

※プラザホールの休館日は年末年始(12月29日~1月3日)

休館日:毎週月曜日(祝日の場合は開館) <貸出施設を除く>  
 発行:神奈川県(県立地球市民かながわプラザ)JR根岸線「本郷台」駅下車徒歩3分 http://www.k-i-a.or.jp/plaza/  
 企画・編集:(財)神奈川県国際交流協会 http://www.k-i-a.or.jp  
 〒247-0007横浜市栄区小菅ヶ谷1-2-1 問合せ:TEL045-896-2121 FAX045-896-2945

地球市民レポート THE GLOBAL CITIZENSHIP REPORT



ぼくはまだ生まれたばかりの水。これからどんな世界が待っているかな? 世界の人びとのくらしと水を探る旅へ、さあ出発だ!

写真の入れ物は水と関係があります。どのように使われるでしょうか? また、水の使い道は何でしょうか? 写真と文字を線でつないでみましょう。

水を届ける

水をくむ

水をためる



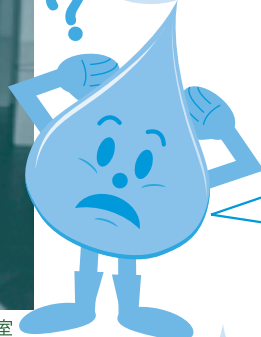
蛇口(じゃぐち)をひねると流れる水・・・

世界の人びとはいろいろな方法でいろいろな入れ物を使って水を手に入れています。

## ためる



タイのチャークリンくんの家 プラザ5階・国際理解展示室



タイのチャークリンくんのおうちに大きな水がめがあります。何のために使う水かな？



## くむ

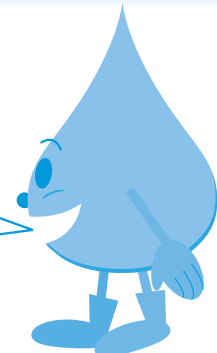
インドの川で、女性が水をつぼにくんで運んでいます。飲み水や料理、また、手足を洗う水として使います。



ガート(※)では身を清めたり、食器洗いや洗濯などもしますが、友達とおしゃべりをしたり、人生を語ったり、とても楽しい場所です。

(※)ガートは川や池のほとりにある決められた所のこと。

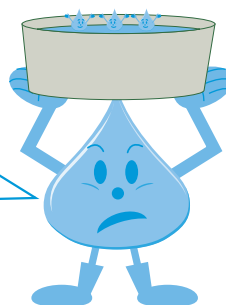
水辺はインドの人びとの心とくらしにとって、かかせない場所なんだね。



## 運ぶ



頭にも手にも水を持っているね。とても重そうだなあ。

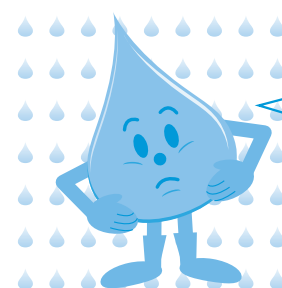


ケニアのある村では水くみはこどもたちの大切な仕事。近くの川からこうして頭に乘せて運びます。近くに川や湖がない村では毎日遠くまで歩いて行きます。

もし水道があったら、こどもたちのくらしはどのように変わるのでしょうか？

## 届ける

難民キャンプで生活する人びとのために、国連などが食料や水を配給します。水は給水車で届けられ、人びとは水タンクを持って水をもらうために順番に並びます。



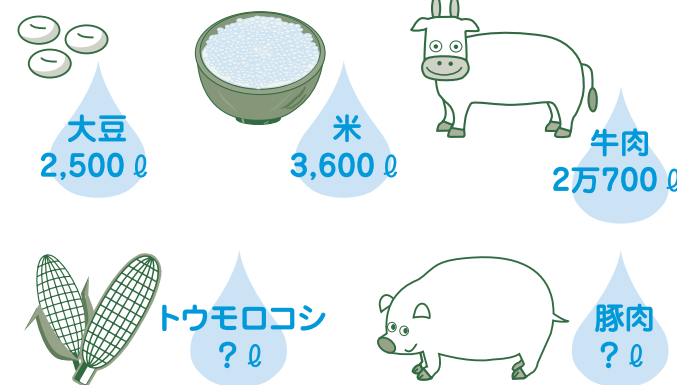
世界中どこでも同じように水を手に入れることができるわけではないんだね。



折りたたみ式ポリタンク プラザ5階・平和展示室 (提供) UNHCR (国連難民高等弁務官事務所)

## 輸入する

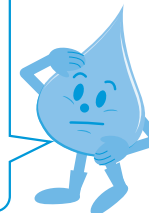
食糧1kgを生産するために使われる水の量



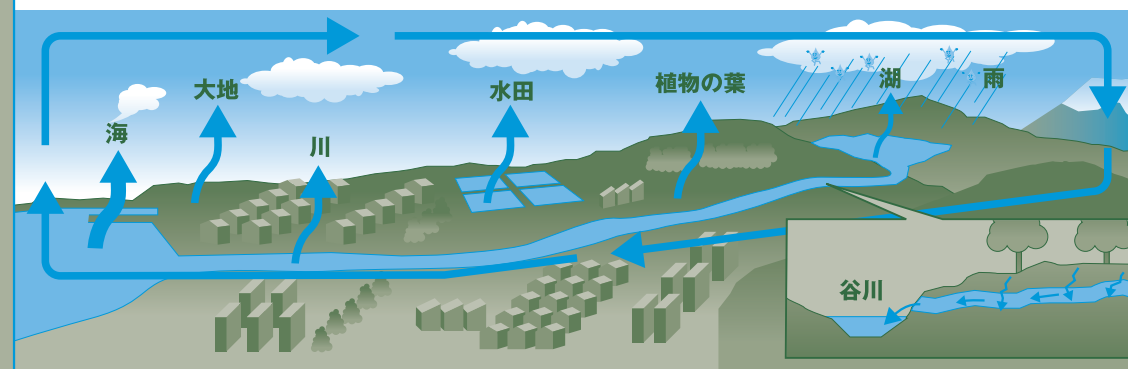
参考文献:「1秒の世界 GLOBAL CHANGE in ONE SECOND」山本良一(責任編集)、Think the Earthプロジェクト(編集)ダイヤモンド社

日本はいろいろな製品や食品を外国から輸入しています。左の図は大豆や米、牛肉などの輸入品を国内で生産するとしたらどれくらいの水が必要とされるのかの目安を示しています。

1年間に日本が輸入している農作物と畜産物をすべて国内で生産するとしたら640億mの水が必要となるんだよ。水を直接輸入しなくても、食べ物や製品を輸入することで、外国の水をたくさん使っていると考えられるよ。



## みんなの飲み水はどこからくるのかな？



いつも飲んでいる水。そのもとはどこにあるのでしょうか？ いったいどこからどのように運ばれてくるのでしょうか？

## 調べてみよう

プラザ5階の国際理解展示室・平和展示室にある水にまつわる展示をヒントに、ワークシートを使って、世界の人びとの水のくらしを調べてみましょう。



プラザ2階の映像ライブラリー・情報フォーラムでは、調べ学習に役立つ本やビデオがあります。環境・安全・貿易など水に関わる問題をいろいろな面から考えてみましょう。

### 【おすすめの本とビデオ】

- ◆「水をきれいにするためにできること」 奈須紀幸(監修)ポプラ社
- ◆「ミナの村と川」(ビデオ) 17分 (財)ユネスコ・アジア文化センター
- ◆「水は誰のものか」(DVD) 28分 アジア太平洋資料センター制作・著作

### 【参考文献】

- ◆「まんがで学ぶ開発教育 世界と地球の困った現実—飢餓・貧困・環境破壊」 日本国際飢餓対策機構(編) みなみななみ(まんが) 明石書店
- ◆「世界がもし100人の村だったら3くたべもの編」 池田香代子、マガジンハウス(編) マガジンハウス
- ◆「難民と地雷—わたしたちにできること できることからはじめよう!」 小林正典(監修) 草土文化